

【短信】

学校は「人」できている

小林 厚志

この地だからこそ学べることに胸を躍らせながら、今日も自然豊かな山あいの道に車を走らせませす。

(こばやし あつし 天龍村立天龍中学校)

長野県最南端のコンビニから、さらに南に二十分ほど車を走らせたところに、私が勤務する天龍中学校があります。全校生徒は十四人。担任する三年生の学級は七人です。

人数が少ないと、これまで数の多さに薄められ、目を向けてこなかったことがよく見えます。生徒の些細な表情の変化、微妙な人間関係、そして一人一人の成長。「自分の仕事は子どもに効率良く知識を定着させることではない」と改めて感じさせられました。そこに子どもがいて、その向こうには家庭があり、地域に見守られて学校がある。少人数の中で教育の原点に触れ、学校は「人」できているのだと知りました。

下伊那は西尾実の出生の地でもあります。通勤路の脇には西尾実記念館があり、一昨年からは教育会の研究委員として、西尾実について勉強させていただく機会を得ました。